

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成30年度 読み書き障害児におけるICT支援機器を用いた通常学級での支援の一例
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	円周や直径の求め方
	授業の目標	円周率を用いて円周や直径の長さの求め方を理解する
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実際	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない 5年 28人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD(学習障害) <input checked="" type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input checked="" type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input checked="" type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 decordingに顕著な弱さがみられるため、文章の音読や読解課題などの読み課題の取り組みに困難がみられた。書字においてもencordingの弱さに眼と手の協応の弱さが合することでより顕著な困難さが生じていた。また、ワーキングメモリの弱さにより情報保持が難しく、内容を忘れてしまう場合も多かった。そのため、読み書きが伴う学習課題全般への拒否感が強く、学習参加が難しい状態であった。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 本児はWISC-IVの結果より、言語や視覚情報を基に考える力は年齢相応であり、授業の内容を理解することは十分に可能である。そこで、ICT支援機器を導入することにより本児の弱さを支え、理解を促進し学習参加への参加意欲を増進することをねらった。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	①iPad、②Goodnotes5、③三省堂小学生辞書セット、④WorldPenScan X 
授業展開	授業展開・支援の手立て	「円周は直径の3.14倍」という内容を前の授業で学習し、その復習と応用を学ぶ授業。①公式(円周=直径×3.14)の確認、②黒板に提示された練習問題を転記して解く、③「直径を求めるためにはどうしたらよいか？」をグループで話し合い、結果をノートに書いて発表、という流れで授業が行われた。①では、前回の授業でGoodnotes5を用いて作成した算数のデジタルノートを参照することで確認し、②ではGoodnotes5にある作図機能とテキストボックス機能を用いてデジタルノートに記入して取り組んだ。その他の板書された内容も、鉛筆は使わずに全てGoodnotes5を使い、iPad内のデジタルノートに記載した。③の場面では、話し合いの内容をノートに書く場合に漢字の形が思い浮かばないことがあった。辞書アプリを用いて漢字を調べるという形式で取り組んだ。また、自宅でペン型スキャナーを用いて教科書の内容の読み上げを行い、予習的取り組みをした上で授業に参加するようにした。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	以前は、担任教師が説明をしても注目が逸れ、別のことをしてしまうことが多かったが、説明によく注目し、グループでの話し合いでも積極的に発言するようになった。また自発的に挙手をして発表することも増えた。支援機器を授業に導入したことで授業内容の理解が促進され、そのことが意欲的な授業参加につながったと思われる。しかし、テキストボックスを用いた筆記は鉛筆を用いた場合と比べ時間を要してしまうため、板書の情報量が多い際には転記に必死になり、話の内容に注目しにくい場合がある。板書の情報量の調整や、転記する箇所を指定するなどの配慮を行うことに加え、情報量の多い場合には転記するのではなくカメラ機能で撮影するなど、効率的な使用方法のフィードバックを行うことが必要と考える。